

1. 科目名 (単位数)	福祉と教育 (2単位)	3. 科目番号	GELA1329
2. 授業担当教員	田中 裕・佐藤 隆・中條 大介・橋本 琢・近藤 高史・宮園 啓介		
4. 授業形態	講義 (教科書)、演習 (レポート作成)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	東京福祉大学・大学院創業者中島恒雄教育学博士は、福祉、教育、保育、心理、医療などに造詣が深く、本学創立にあたり、アクティブラーニング (文部科学省が推奨中のアクティブラーニングの教育学説の基でず) をはじめとする大学教育、大学院教育にかかる学術書を発刊している。本学で学ぶ学生として、本書を熟読し、レポートを作成することによって本学の建学の精神・使命、そしてそれに基づいた本学の教育方法を十分理解することで、福祉、教育、保育、心理、医療などを学ぶ4年間の教育の基礎を身に付ける。そして、学生が主体となった教育の基礎である「読み、書き」を鍛錬しながら、本学における教育について考察し、これからの社会に必要な能力は何か、現代社会で新たに求められている能力とは何かを探求する。		
8. 学習目標	本講義では、①教科書を熟読し、内容を十分に理解すること②レポート作成することで、書く力、文章作成能力を身に付け、課題解決能力を養い、今後の授業や将来社会で役立つ問題発見、課題探求能力を養うことを目標としている。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	レポート課題：毎時間、「授業で読んだことについて、600字～800字程度で論述せよ。」というテーマでレポートを作成する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 東京福祉大学・大学院創業者 教育学博士 中島恒雄著『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』ミネルヴァ書房		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 ・教科書について理解することができたか。 ・教科書の内容を理解し、自分の意見も含め分かりやすい表現でレポートを作成することができたか。 ○評定の方法 ・平常点 (参加度・授業態度) 25% ・理解度 (毎回のレポート作成) 50% ・期末評価 (レポート) 25% 3/4以上の出席が確認できない場合には単位を認めないこととする。さらに、欠席は1回 (90分)につき10点を減点することとし、遅刻や早退はその時間分を減点する。ただし、特別な事情で欠席、遅刻、早退した場合には考慮し、課題を与えるなどして対応する。		
12. 受講生へのメッセージ	この科目では、教科書の読み書きを通じて、本学の建学の精神・使命そしてそれに基づいた本学の教育方法について考え、学問の基礎である文書読解能力、論理的思考力、文章作成能力を養っていただきたい。そのためにも、本授業に参加して、①教科書を熟読し内容をよく理解し、②思考力や問題解決能力を養うためにもレポート作成は欠かせない。		
13. オフィスアワー	授業開始時に知らせる。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 第IV章 私の信念「勉強のできない生徒はいない」 「もともと、私自身勉強ができる生徒ではなかった」～ 「ハーバード大学の招聘学者とはどういうものなのか」 熟読とレポート作成	事前学習	第IV章 私の信念「勉強のできない生徒はいない」 「もともと、私自身勉強ができる生徒ではなかった」～「ハーバード大学の招聘学者とはどういうものなのか」を読んでくる
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく
第2回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 第IV章 「フォーダム留学で、私は「できる人間」に変わった」～ 「いきなり難関にぶちあたった博士課程への道」 熟読とレポート作成	事前学習	第IV章「フォーダム留学で、私は「できる人間」に変わった」～「いきなり難関にぶちあたった博士課程への道」を読んでくる
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく

第3回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 第IV章 「私は、こうして苦しんで、苦しんで、博士課程に入学した」～「やっと書き上げた博士論文もなかなかOKが出なかった」 熟読とレポート作成	事前学習	「私は、こうして苦しんで、苦しんで、博士課程に入学した」～「やっと書き上げた博士論文もなかなかOKが出なかった」を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく
第4回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 第IV章 「学んだら、自分で変化してよくならなければならぬ」～「むずかしい試験に合格した人が必ず優秀だといえるのか」 熟読とレポート作成	事前学習	「学んだら、自分で変化してよくならなければならぬ」～「むずかしい試験に合格した人が必ず優秀だといえるのか」を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく
第5回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 第V章 「平等を重んじるだけの学問では、学生の能力は伸びない」～「フォーダム大学教育学大学院、入学・修了の必要条件」 熟読とレポート作成	事前学習	「平等を重んじるだけの学問では、学生の能力は伸びない」～「フォーダム大学教育学大学院、入学・修了の必要条件」を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく
第6回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 第V章 「私は、お客さま（学生）に良質な授業を提供することをめざす」～「アメリカの大学では、日本の企業の会議と同じ手法で勉強する」 熟読とレポート作成	事前学習	「私は、お客さま（学生）に良質な授業を提供することをめざす」～「アメリカの大学では、日本の企業の会議と同じ手法で勉強する」を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく
第7回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 第V章 「こうした授業テクニックで頭がよくなる学生を育てる」～「私の行なった教育指導方法で学生たちはいかに成功したか」 熟読とレポート作成	事前学習	「こうした授業テクニックで頭がよくなる学生を育てる」～「私の行なった教育指導方法で学生たちはいかに成功したか」を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく
第8回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 第V章 「東京福祉大学系列研究施設の教師は、どのように学生を指導しているか」～「教育効果をあげるためまず基本的な対応が必要」 熟読とレポート作成	事前学習	「東京福祉大学系列研究施設の教師は、どのように学生を指導しているか」～「教育効果をあげるためまず基本的な対応が必要」を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく
第9回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 第V章 「責任ある授業運営のための授業方法」～「教育効果をあげ教育内容を改善するには授業の評価が重要」 熟読とレポート作成	事前学習	「責任ある授業運営のための授業方法」～「教育効果をあげ教育内容を改善するには授業の評価が重要」を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく
第10回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 第V章 「バイスティックの七つの原則にもとづいた教育」～「資料7」 熟読とレポート作成	事前学習	「バイスティックの七つの原則にもとづいた教育」～資料7を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく
第11回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 第VI章 「日本の国家試験の特色である択一式問題に対応するためには暗記が必要」～「コラム5」 熟読とレポート作成	事前学習	「日本の国家試験の特色である択一式問題に対応するためには暗記が必要」～「コラム5」を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく

第12回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 終章 「社会福祉は労働力を提供すればそれで終わりではない」～「コラム6」熟読とレポート作成	事前学習	「社会福祉は労働力を提供すればそれで終わりではない」～「コラム6」を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく
第13回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 終章の「資料8」と「あとがき」 熟読とレポート作成	事前学習	「資料8」と「あとがき」を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく
第14回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 「中国の一人っ子 猛勉強」の記事について 熟読とレポート作成	事前学習	「中国の一人っ子 猛勉強の記事について」を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく
第15回	『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』 資料編 「東京福祉大学・系列研究施設の教育システムと実績」～「5 教師の問題——専門知識と知恵」 熟読とレポート作成	事前学習	資料編の「東京福祉大学・系列研究施設の教育システムと実績」～「5 教師の問題——専門知識と知恵」を読んでおく
		事後学習	本日の範囲と自分のレポートを再度読み返しておく なお、期末レポートとして『最新 できなかった子をできる子にするのが教育』全体を通して学んだこと、という題で1000字前後のレポート提出（最後の授業から1週間後に提出、詳細は授業の中で説明する）